

吉井つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書 (令和4年度) 2022年

9	月	日	曜日	開始	終了	場 所	会員参加数
	12	25	日	8:30	1300	五味ヶ谷市民の森	21名
活動名称	門松教室					報告者：吉井 優	

1、活動目的

私達が市民管理協定で整備している五味ヶ谷市民の森は、竹林と雑木林からなり、近隣住民の散策路として親しまれています。この森を子供たちに積極的にアピールし、楽しさを通して森の大切さを理解してもらいます。市民の森の竹林で発生する竹を有効利用する目的で、門松教室を実施しています。家族で協力して門松を作ることで、家族の絆が深まり、地域の方々とのふれあいもできます

2、活動内容ほか

コロナ禍ということで今年も市民の森で開催しました。寒さ対策として、ドラム缶で竹を燃やしました。先日からの寒波に見舞われたためか、暖をとる貴重な熱源として好評でした。ただし、木の枝を燃やしたり、青竹を大量にくべたりして、煙が活動エリアにひろがり申し訳なかったです。9時に受付開始し、9時半からイベントの説明、門松の作り方を説明し、竹選びから始めました。6本の竹を、適度の長さに切断し、3本まとめて、畳表で包み、わら縄で固定する。昨年は、30cmの長さの畳表を使ったため、竹の長さとのバランスが悪かったが、今年は15cmに切断した畳表を提供しました。スタッフ用は、30cmのままですが、手鋸で半分に切り使ってもらいます。これに松と梅と南天と紙飾りをさして門松が完成します。11時半過ぎにほぼ全員の門松が完成し、集合写真を撮って後、全員で後片付けをして、12時にはイベント終了となりました。

3、評価：

46組の募集でしたが、例年1割程度のキャンセルがあるため、49組受付しました。藤金の里山体験会から、オミクロンによるキャンセルが増加しており、今回も12組のキャンセルが発生しました。中央支え合い協議会の大人の体験を受け入れたりして、42組子ども58名、大人58名の体験となりました。12月3日から応募受付開始でしたが、当日49組を受付し、翌日から毎日ひたすら、定員越えのため受付中止を伝え続けるという大好評なイベントでした。期待も大きいですが、イベント終了後、参加者が笑顔で帰宅しています。

4、課題

コロナ第8波が始まっているせいか、12組ものキャンセルが出ました。大人気のイベントということもあり、できるだけ多くの家族に参加してもらいたいと思っています。毎年1割くらいのキャンセルを想定して受け付けていましたが、来年は、コロナの影響を考慮して、受付人数を考慮します。今年から、市販の藁縄から畳表のイグサをほぐして作ったイグサ縄を使用しました。切断面からイグサがほぐれ、なわを結ぶのに難易度が増します。来年も使うとのことですので、改善を期待します。

<里山参加会員>

小沼、大森、石黒、小澤邦、-、内藤、柳川、佐野英、牛島、田中、-、吉富、-、杉山、小澤弘、-、松井、上野、吉井、風祭、木部、小嶋、上見、(石川、阿部)

<活動写真>

